

学部留学生を対象とする言語文化 日本語

村上京子

2004年度言語文化 日本語 の科目及び受講生数は以下の通りであった。

前期

	対象	時間	担当者	科目名	受講者数
1年	文系	月3限	秋山	文章表現	12
	文系	木3限	西田	口頭表現	12
	理系	火2限	村上	文章表現	2
	理系	木2限	魚住	口頭表現	3
	工学系(国)	月2限	西田	口頭表現	6
	工学系(私)	月2限	村上	文章表現	9
	工学系(国)	水2限	魚住	文章表現	6
2年	工学系(私)	水2限	鷺見	口頭表現	9
	文系	火1限	鹿島	文章表現	7

後記

	対象	時間	担当者	科目名	受講者数
1年	文系	木3限	村上	口頭表現	12
	文系	金2限	秋山	文章表現	12
	理系	火2限	村上	文章表現	2
	理系	木2限	魚住	口頭表現	2
	工学系(国)	月2限	西田	口頭表現	6
	工学系(私)	月2限	秋山	文章表現	10
	工学系(国)	水1限	魚住	文章表現	6
2年	工学系(私)	水1限	鷺見	口頭表現	9
	文系	木1限	鹿島	文章表現	8

クラス

文系：文学部・教育学部・法学部・経済学部・情報文化学部社会システム情報学科

理系：医学部・理学部・農学部・情報文化学部自然情報学科

工学(国)：工学部(国費留学生・政府派遣留学生)

工学(私)：工学部(私費留学生・日韓理工系留学生)

授業報告

1年前期

口頭表現

文系クラス

受講者：12名，担当：西田瑞生

授業のねらい：大学という環境において日本語の使用能力を高める，特に，大学で日本語ネイティブと同じクラスで講義を聞くための基礎的な力をつけるために，ノートの取り方と内容を短くまとめて理解する方法を学ぶ。また，日常生活にいてもわかりやすい説明ができるような能力を養う。

授業内容：

- ・メインの授業では，まず，授業の最初に耳慣らしとして，短いニュースを聞き，質問に答えるという課題をし，講義の聞き取りの練習を行い，授業の最後に学生によるスピーチを行った。授業の中核は，講義のテープや社会問題などの解説のテープを聞いて，ノートを取り，内容について確認するというものである。
- ・ノートをとるためのポイントとして「キーワードを聞き取る」「記号を使う」「短く書く」「箇条書き」「ナンバリング」「ラベリング」などを扱った。
- ・わかりやすいノートの取り方と話し方の練習(グルーピングや順序だった説明など)の一環として，メニューや交通案内などをグループに分かれて考え，作成した。
- ・また目上の人に対するeメールの書き方を学んだ。
- ・さらに全体のまとめとして，それぞれ自分の視聴したい映画についてインターネットなどで調べ，クラスメートに発表しておもしろさを伝えるという課題を与え，クラスメートにもっとも支持された映画を視聴した。
- ・毎回の授業の最後に学生によるスピーチを行った。1人5分程度で，テーマは自由に決めてよいものとした。このスピーチについては，T. A. のフィードバックを受けて直した後，最後の授業でもう一度発表した。
- ・全体のまとめとして，それぞれ自分の視聴したい映画についてインターネットなどで調べ，クラスメートに発表しておもしろさを伝えるという課題を与え，クラスメートにもっとも支持された映画を視聴した。

理系

受講者：3名，担当：魚住

授業のねらい：大学の勉学に必要な日本語運用能力のうち、特に口頭能力を強化する。高度な聴解能力および情報をまとめて伝達する能力、コミュニケーション能力の向上をめざす。ポイントを整理して論理的に考えを述べる能力を養う。

授業内容：

・視聴覚材料を用いて情報を取る練習や、ノートテキング、ディスカッション、ポイントを整理して話す練習、口頭発表などを行う。

ビデオの視聴とディスカッション

ビデオを見て、内容を理解し、関連する内容について、ディスカッションを行う。

テーマ：お花見，名古屋弁・名古屋紹介，生殖医療，原子力事故による被爆，熱帯雨林

ノートテキング

講義を聞くための練習として、ノートテキングの仕方を練習。

使用教材：『留学生のための大学の授業へのパスポート』

使用材料：上記で視聴したビデオ，他の学生の口頭発表

ポイントを整理して話す練習

論理的で分かりやすく話すために、列挙，原因理由，比較対照などの文についてポイントを整理した話し方を練習する。発表し，相互批評を行う。

口頭発表

毎回1人が自分でテーマを決めて発表。ポイントを整理して話すことを課題とし，相互批評を行う。発表者は，フィードバック後，発表原稿を訂正し提出する。他の学生は，メモをもとに発表内容の簡単な要約とそれについての意見を提出する。

その他

・会話練習

待遇表現に注意して，頼む，誘う・受ける・断る，許可をもらう，などのfunction練習を行う。

・レジュメの書き方

評価：

小テスト，期末試験（筆記試験と口頭発表），発表・課題・提出物などの平常点，授業への参加態度，出席状況：

* 少人数のクラスだったため，口頭発表の回数が多

かったが，各自が選んだテーマが内容的に身近な話題の域を出なかったのが少し残念であった。他の人の発表を聞いたり，相互批評をすることで，互いに刺激し合った面はあると思う。学生の要望により，会話練習も授業に取り入れたため，予定していた内容で取り扱えなくなったものもあった。

工学系・国費政府派遣クラス

受講者：6名，担当：西田瑞生

授業のねらい：大学という環境において日本語の使用能力を高める，特に，大学で日本語ネイティブと同じクラスで講義を聞くための基礎的な力をつけるために，ノートの取り方と内容を短くまとめて理解する方法を学ぶ。

授業内容：

・メインの授業では，まず，授業の最初に耳慣らしとして，短いニュースを聞き，質問に答えるという課題をし，講義の聞き取りの練習を行い，授業の最後に学生によるスピーチを行った。授業の中核は，講義のテープや社会問題などの解説のテープを聞いて，ノートを取り，内容について確認するというものである。

・ノートをとるためのポイントとして「キーワードを聞き取る」「記号を使う」「短く書く」「箇条書き」「ナンバリング」「ラベリング」などを扱った。

・わかりやすいノートの取り方と話し方の練習（グルーピングや順序だった説明など）の一環として，メニューや交通案内などをグループに分かれて考え，作成した。

・また目上の人に対するeメールの書き方を学んだ。

・さらに全体のまとめとして，それぞれ自分の視聴したい映画についてインターネットなどで調べ，クラスメートに発表しておもしろさを伝えるという課題を与え，クラスメートにもっとも支持された映画を視聴した。

・毎回の授業の最後に学生によるスピーチを行った。1人5分程度で，テーマは自由に決めてよいものとした。このスピーチについては，T. A.のフィードバックを受けて直した後，最後の授業でもう一度発表した。

工学系・私費クラス

受講者：9名，担当：鷲見幸美

授業のねらい：口頭運用能力、及び、聞き取り能力の向上を目指す。

授業内容：

ネイティブスピーカーへのインタビューを行った。

- ・インタビューのテーマ（興味、関心を持っていること、日本人に聞いてみたいこと）、質問項目、インタビューの相手（複数）を受講生各自が決めた。
- ・ロールプレイにより、インタビューの練習を行った。インタビューの依頼（切り出し）、質問の展開のさせ方を練習するとともに、説明要求、内容確認、話題の軌道修正、あいづち等を意識的に行うように促した。
- ・各自が教室外で行ったインタビューを録音し、それを授業で互いに聞き合い、評価し合った。

インタビュー結果、インタビュー結果を踏まえての各自の意見を口頭で発表した。

- ・発表のためのハンドアウトを作成した。
- ・ロールプレイにより、質疑応答の練習をした。
- ・発表を録画し、それを見て互いに評価し合った。

NHKの教養番組（クローズアップ現代）や報道番組（おはよう日本まちかど情報室）などから、工学部の学生が興味を持ちそうなものを選んで視聴し、聞き取り練習を行った。

評価：出席、授業内外の課題への取り組み、口頭発表によって評価した。

授業の内容：

共通テーマ：グローバリゼーション

	テーマの理解	言語技能の重点的養成			
		巨視	微視	産出	受容
1 2 3	ジハードとマックワールド ・情報化の進展と社会変動 ・市場原理の拡大 ・市民の形骸化	読む	精読	書く： 要旨を短文で	読む
4 5	グローバル・キャピタル ・多国籍企業の市場戦略 ・多国籍企業と国家	聞く／読む	大意／選択	書く： 要旨・意見を短文で	聞く
6 7	グローバリゼーションへの懸念 ・「画一化」への不安 ・「勝ち組」「負け組」論 ・painstaking と risktaking	読む	速読： 大意／選択／マッチング	書く／話す： 賛否両論を文章で	読む
8 9 10 11	各国事情（日本） ・負の相互依存 ・「社会の絆」の脆弱性	読む	速読： 大意／選択／マッチング	話す／書く： 自国事情を文章で & 報告	読む／聞く

工夫・反省：

- ・インタビューに徐々に慣れ、自信をつけていくことをねらい、できるだけ多くの人にインタビューをするように促したが、インタビューの数は限られていた。講師が活動に取り組む動機を十分に高めることができなかったこと、及び、受講生がインタビュー相手をうまく探せなかった（依頼しにくかった）ことが主な原因であったと思う。今後この点について工夫が必要だと感じている。
- ・聞き取り練習は、「講義を聞いて内容を理解し、ノートをとる」ための練習であることを意識できるように心がけ、聞き取りの過程でいかなる問題が生じるか、その問題にいかに対処するかを考えたり、話し合ったりした。多少はストラテジーの意識化につながったと思うが、それによって聞き取り能力が向上したかどうかについては疑問が残る。

文章表現

文系クラス

受講生：12名、担当：秋山 豊

授業のねらい：読む力、書く力の養成。脱国家的な地球的問題群のひとつを共通テーマとして取り上げる。テーマについての理解を深める過程で読む力、書く力の向上をめざす。最終目標は、共通テーマに精通することである。

12	(まとめ: レポート作成を めざして)			話す: レポート構成など を検討	聞く
13					
14					

評価: 授業への参加度, タスクシート, レポート
工夫・反省: 授業に積極的に参加し, 随時の課題をこ
なしていけば, 最終的にレポートの作成につながる
ように工夫する。

理系

受講者: 2名, 担当: 村上

授業のねらい: 文章表現能力の養成: レポートの書き
方の基礎を学ぶ

授業内容:

- ・メール文の書き方: メール文の文例をもとに皆で意見
を言いながら添削しあい, 実際に教員にメールを
出す練習をする。
- ・資料を読み, 意見を言う・まとめて書く: 新聞記事
をポイントをつかみながら読み, 要約し, 意見を言
う。その後短くまとめた文を書く練習をする。
- ・レポート・論文に用いられる語彙・表現を学ぶ: 「ク
リティカル進化論」(北大路書房)を用いて, 話し
言葉と書き言葉の使い分けや論文に用いられる語彙
・表現の練習を行なった。
- ・説明の文章の書き方: 操作手続きやものの形状を説
明する文を読み手の視点から点検し, 分かりやすい
文を書く練習をする。
- ・レポートを書く: 「留学生のための論理的な文章の
書き方」(スリーエーネットワーク)の文例を分析
しながら, 「遺伝子組み替え」「クローン」に関する
レポートを仕上げた。

評価: 授業への参加度, タスクシート, レポート
工夫・反省:

授業前オリエンテーションにおいて, これまでの日
本語学習歴のほか日本語学習のニーズや興味のある分
野を調べ, Can-do-statements と記述試験で学習者の
診断をする。この結果に基づいて, 教材や目標設定の
調整を行った。

実際に教師宛にメールを出す宿題を与え, そのメー
ル文を使って, どこをどう直せばいいのかなどをディ
スカッションしながら, 指導するようにしている。は
じめから答えを与えるのではなく, 学習者自身の気づ
きを重視して, 後日一人で書くときに自己修正ができ

るように留意している。学生同士のピア・レスポンス
は, 大変好評で活発に意見が出され, 授業後修正した
文章を再提出させているが, 文章の学習には効果的だ
と思われる。毎週与えるメールの宿題は, 「アポイン
トをとる」「本を借りる」「欠席の詫び」などである。
留学生の教室外の活動をいつも意識しながら学習活動
を考え, 実際に使えることを目指して教室活動を行う
ようにしている。

工学系・国費政府派遣クラス

受講者: 6名, 担当: 魚住

授業のねらい: 大学の勉学に必要な日本語運用能力の
うち, 特に文章表現能力を強化する。

読解力, 語彙力の養成と, レポートを書くために必
要な論理的な文章を書くための基礎力を養う。

授業内容:

主に, 読解, 要約, 意見, ポイントを整理して書く
作文練習を中心に行った。

読解: 新聞 etc.

全員で読んで, ワークシートに答え, 内容について
話し合う。その後, 要約および意見を書く。

テーマ: 名古屋の大学生の活動, 名古屋文化紹介, イ
ラク人質事件, イラク虐待事件, 核問題, 自然エネル
ギー, コンピューターによる VDT 症候群, 日本のロ
ボット

論理的文章を書くための基礎技術

- ・原稿用紙の書き方, 句読点の打ち方, 文体
- ・要約練習

- ・ポイントを整理して書く練習

列挙, 原因理由, 比較対照などの文について, ポ
イントを整理して作文を書く。書いた作文は発表し,
相互批評を行う。小見出し・アウトラインの整理の
仕方も学ぶ。

新聞記事の発表練習(インターネット利用)

- ・インターネットで各自興味のある新聞記事を探し,
ネット上の読解支援システムを利用して読み, 要約
と意見を発表する。レジュメも提出する。

- ・レジュメの書き方

その他

- ・板書文字の読み方
- ・メールの書き方

評価：小テスト、提出物などの平常点、レポート（各自好きな記事1本を読み、要約・意見を書く）、口頭発表（レポート内容の発表、レジュメ提出）、授業への参加態度

工夫・反省：発表した作文などの相互批評を通じて、互いに刺激しあい、ポイントを整理することに意識が向きやすくなったのではないかと思う。読解教材としては、学生からイラク問題というホットな話題の要望があったため取り上げた。前年度、非漢字圏の学生にとっては生の新聞記事を自分で読むことは大変そうだったため、今年度はインターネットの読解支援システムを利用して読ませることにし、負担軽減を図った。作文やワークシートなどの間違い箇所については、教師は指摘するにとどめ、学生が授業外でT.A.の助けを借りて自己訂正し再提出させる方法をとったが、熱心に取り組んでいる学生もいたが、全体として学生の負担感が大きくなってしまったようである。再検討が必要である。

工学系・私費クラス

受講者：9名、担当：村上

授業のねらい：日本語運用能力の特に文章表現能力を磨くことを目指す。文章理解および論理的な文章を書くことを学習する。

授業内容：

- ・メール文の書き方：メール文の文例をもとに皆で意見を言いながら添削しあい、実際に教員にメールを出す練習をする。
- ・資料を読み、意見を言う・まとめて書く：新聞記事をポイントをつかみながら読み、要約し、意見を言う。その後短くまとめた文を書く練習をする。
- ・レポート・論文に用いられる語彙・表現を学ぶ：「クリティカル進化論」（北大路書房）を用いて、話し言葉と書き言葉の使い分けや論文に用いられる語彙・表現の練習を行なった。
- ・説明の文章の書き方：操作手続きやものの形状を説明する文を読み手の視点から点検し、分かりやすい文を書く練習をする。
- ・レポートを書く：「留学生のための論理的な文章の書き方」（スリーエーネットワーク）の文例を分析しながら、各自関心のあるテーマに関するレポート

を仕上げた。

参考図書

「日本語を書くトレーニング」

野田尚史・森口稔 ひつじ書房

「ことばのエクササイズ」 青木三郎 ひつじ書房

「クリティカル進化論」

道田泰司・宮元博章 北大路書房

「留学生のための論理的な文章の書き方」

二通信子・佐藤不二子 スリーエーネットワーク

評価：授業への参加度、タスクシート、レポート

工夫・反省：授業前オリエンテーションにおいて、これまでの日本語学習歴のほか日本語学習のニーズや興味のある分野を調べ、Can-do-statements と記述試験で学習者の診断をする。この結果に基づいて、教材や目標設定の調整を行った。

実際に教師宛にメールを出す宿題を与え、そのメール文を使って、どこをどう直せばいいのかなどをディスカッションしながら、指導するようにしている。はじめから答えを与えるのではなく、学習者自身の気づきを重視して、後日一人で書くときに自己修正ができるように留意している。学生同士のピア・レスポンスは、大変好評で活発に意見が出され、授業後修正した文章を再提出させているが、文章の学習には効果的だと思われる。毎週与えるメールの宿題は、「アポイントをとる」「本を借りる」「欠席の詫言」などである。留学生の教室外の活動をいつも意識しながら学習活動を考え、実際に使えることを目指して教室活動を行うようにしている。

1年後期

口頭表現

文系

受講者：12名、担当：村上

授業のねらい：口頭発表やディスカッションにおいて、論理的に意見を述べるための口頭練習を行なう。

授業内容：

- ・ロールプレイによる場面表現練習：依頼・断わり・文句を言うなど日常生活で遭遇する可能性が高く、対人的な配慮を考えると実際には難しい場面のロールカードを用意し、録画した画像をもとにみんなでディスカッションをする。各自想定会話を書き提出する。
- ・提言スピーチ：全員が1人15分程度で様々な内容の

提言を行い、その意見の言い方やスピーチの構成について聞き手側から評価表に書き込み、それをもとに話し合う。「日本の広告について」「年金制度」「オリンピックと国家主義」「マンガ文化」など各自ふだんから関心をもっている内容について調べ、それに対する自分の意見と将来に向けての積極的提言を行った。

- ・ディベート：ディベートに関してその意義や方法、表現など学習した後で、6回分のテーマと担当、審判と記録シートの記入法などを決め、毎回1つのテーマでディベートを実施した。3人のグループで事前に作戦を練り、授業中は約30分でディベートを行い、反省の時間を多くとった。「国際結婚」「公共施設の前面禁煙」「安楽死」などのテーマで行われたが、すべてビデオ録画し、ディベート後ビデオを見ながら意見を言い合った。各テーマで討論した内容について意見をまとめて書いてくる宿題が課された。

評価：授業への参加度、録音・録画された口頭表現資料、レポート

工夫・反省：TAがついたため、ビデオ録画をしてもらえた。デジタル化された録音資料は各自にメールで送られ、フィードバック時に表現や発音などの注意を受けた内容を各自自分で再度確認でき、有効だった。ビデオ録画は当初恥ずかしいなどと不評であったが、次第に慣れ、授業終了時にはコピーがほしいと多くの学生から要求されるなど抵抗がなくなったようである。

理系

受講者：2名、担当：魚住

授業のねらい：日本語(口頭表現)1での学習を踏まえ、さらに口頭表現能力、聴解能力の強化を目指す。特に、情報をまとめて伝達する能力、ディスカッション能力の向上を目指す。ビデオの視聴を通じて日本社会への理解を広げるとともに、発表、ディスカッションの方法などについても学ぶ。

授業内容：

ビデオの視聴とディスカッション、ポイントを整理した話し方と口頭発表を中心に授業を行う。

ビデオの視聴とディスカッション

- ・ニュースやドキュメンタリー番組のビデオを見て、メモを取り、内容を理解する。
- ・メモをもとに、話の内容を整理し、ポイントをアウ

トラインにまとめる。

- ・アウトラインを見ながら、ビデオの内容について話す。

- ・関連する内容についてディスカッションを行う。

テーマ：クマ出沒、ネット集団自殺、狂牛病、ひきこもり殺人、中越地震と不安、ヨン様、成果主義、スマトラ沖地震と津波

ポイントを整理して話す練習

論理的で分かりやすく話すために、ポイントを整理していろいろな話し方を練習する。

方法説明の仕方、提言・提案の仕方、論点を整理して行うディスカッション、ディベートなど。その他、意見の述べ方、ディスカッションの表現なども練習。

参考教材：『日本語口頭発表と討論の技術』

口頭発表

- ・自分で選んだテーマ、または与えられた上記ポイントまたはテーマで発表。ポイントを整理して話すことを課題とする。質疑応答、ディスカッションを行う。レジュメも提出する。

- ・授業中にフィードバック。フィードバック後、発表原稿を訂正し、提出する。

評価：小テスト、期末試験(口頭発表：授業に関連のあるテーマで、国の状況について述べる)、発表・課題・提出物などの平常点、授業への参加態度、出席状況

*非常に少人数ではあったが、フィードバックも十分行え、きめの細かい指導ができた。学生も意欲的で、確実に課題をこなしていった。また、学生の能力に負うところも大きいですが、ディベートも深みのある内容となった。

工学系・国費政府派遣クラス

受講者：6名、担当：西田瑞生

授業のねらい：前期にひきつづき、他の人に対して話す能力を高める。1つは、自分の専門について、話し合ったり、説明したりする能力を高めることであり、もう1つは、日常生活などおける語用論的にわかりやすい話し方を学ぶことである。

授業内容：

- ・「問い合わせをする」「道の案内をする」「宣伝をする」などの様々な場面に関して、適切ではない会話を聞き、どこが適切でないかを話し合い、よりよい会話(話し方)を考えるという練習をした。

- ・専門的な内容に関しては、数回の個人面接を行った後、ハンドアウトを作り、発表する練習をした。
- ・専門的な内容の発表に関しても、わかりにくかったり魅力的でなかったりする発表を聞き、その理由を話し合い、よりよい発表を心がける練習をした。
- ・発表のとき気をつけるポイントとして、ナンバリングとラベリング、難しい単語の説明の仕方、身近な話題との関係などを挙げた。
- ・発表のときどのように質問すればよいかも考えた。

工学系・私費クラス

受講者：9名，担当：鷲見幸美

授業のねらい：アカデミックな場面で必要とされる高度な口頭運用能力の向上を目指す。

授業内容：

『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』(The Japan Times)の一部を用い、アカデミックな内容を讀んだり、聞いたりして、それを正確に、わかりやすく伝える練習、得られた情報を基に、論理的に考えをまとめる練習を行った。

口頭発表を行い、それを録画したのを見て、互いに評価し合った。発表は2回行い、一回目は発表の内容(正確であること・論理的であること)、二回目は発表の仕方に重きを置いた。

受講生の協議により決定されたテーマ「人クローンは人類にとってプラスである」でディベートを行った。

授業の最初に「まちが絵さがし」「伝言ゲーム」等、雰囲気作りのためのアクティビティーを行った。

授業の内容：

共通テーマ：グローバルゼーションと文化

	テーマの理解	言語技能の重点的養成			
		巨視	微視	産出	受容
1	食文化：	読む	精読	書く： 要旨を短文で	読む
2	・マクドナルド				
3	文化産業：	読む	大意/選択	書く： 要旨を短文で	読む
4	・ディズニーランド				
5	・ハリウッド映画				
6	アイデンティティーと文化：	読む	精読	書く/話す： 要旨を短文で	読む
7	・英語支配				
8	各国事情(日本)	読む	速読： 大意/選択/ マッチング	話す/書く： 賛否両論を文章で & 報告	読む/聞く
9	・英語公用語論				
10					
11					

評価:出席, 授業内外の課題への取り組み, 口頭発表, ディベートによって評価した。

工夫・反省:ディベートは, 受講生が予想以上に積極的に取り組み, 前後期を通して, 最も盛り上がるものであったと同時に, 最も学びの多い活動であったと思う。後期はディベートを中心とした授業計画をたてていたにもかかわらず, その他の活動に時間をとられ, 担当講師としては準備時間の不足が心配であった。しかし, 受講生が自分たちの意志で, 授業時間外に集まったり, メール交換をしたりして準備を進めてくれた。講師とTAで審判をつとめ, 勝敗を決めたが, その結果に対する受講生の反応からも, 意欲的に取り組んだことが窺えた。フィードバックの時間が十分にとれなかったことが非常に残念である。今期は, 受講生の積極性, 協調性に助けられ, ある程度の学習成果が得られたと思うが, 今後ディベートをする際には, 準備の過程に工夫が必要であるとする。

文章表現

文系

日本語(文章表現2)[文系クラス]

受講生:12名, 担当:秋山 豊

授業のねらい:読む力, 書く力の養成。脱国家的な地球的問題群のひとつを共通テーマとして取り上げる。テーマについての理解を深める過程で読む力, 書く力の向上をめざす。最終目標は, 共通テーマに精通することである。

12	(まとめ: レポート作成 めざして)			話す: レポート構成など を検討	聞く
13					
14					

評価: 授業への参加度, タスクシート, レポート
工夫・反省: 授業に積極的に参加し, 随時の課題をこ
なしていけば, 最終的にレポートの作成につながる
ように工夫する。

工学系・国費政府派遣クラス

受講者 6名, 担当: 魚住

授業のねらい: 日本語(文章表現)1での学習を踏まえ,
さらに高度な読解力の向上を目指す。特に, 多く
の資料を自分の力で読めることを目指す。また, レ
ポートが書けるようになるために, 日本語レポ
ート作成の基礎的な書き方を学ぶ。

授業内容:

主に, 新聞読解および発表, レポートの書き方およ
びそれに関連する技術の練習とレポートの作成を行う。

新聞読解および発表(インターネット利用)

各自, インターネットで興味のある新聞記事を探し,
ネット上の読解支援システムを利用して読み, 分かり
やすくポイントを整理して内容を発表する。レジュメ
も提出する。その後, 質疑応答・討論, 相互批評を行
う。発表者は関連情報も調べ, 討論に備える。発表後,
発表内容をレポート形式にして提出する。その他の学
生も同じ記事を読み, 発表後, 要約を提出する。

レポートの書き方および関連技術

- ・ 図表の説明の仕方
説明の仕方・表現について学び, 図表の説明文を書
いて, 発表する。
- ・ 引用の仕方・参考文献の書き方
- ・ レポートの書き方
プリント教材を使って, レポートの書き方の基礎的
なポイントを学び(構成, 資料の探し方, アウトラ

授業の内容:

共通テーマ: グローバリゼーション

	テーマの理解	言語技能の重点的養成			
		巨視	微視	産出	受容
1	ジハードとマックワールド ・ 情報化の進展と社会変動 ・ 市場原理の拡大 ・ 市民の形骸化	読む	精読	書く: 要旨を短文で	読む
2					
3					

インの作成, 見出しのつけ方, 表現・見本読み他),
各自好きなテーマでレポートを作成。テーマ・目的,
アウトラインを発表し, 相互批評を行う。最後にレ
ポート集を作成。

参考教材:

『研究レポートの方法』『論理的な文章の書き方』

学生が選んだレポートテーマ:

「宇宙の存在: イスラム教の見方」「クォークとレ
プトンの世界」「宇宙太陽発電所」「テレビ」「乗
り物と生活の時代による変化」「フィリピンの売
春問題」

評価: 小テスト, 課題・提出物などの平常点, レポ
ート(テーマ・材料は各自好きなものを選択), 口頭
発表(レポート内容の発表, レジュメ提出), 授業
への参加態度

工夫・反省: 各種の発表などの相互批評を通じて, 互
いに学び合うことができたのではないかと思う。非
漢字圏の学生にとってインターネットの読解支援シ
ステムを利用して読むことは, より多くの資料を読
み, 情報を取る上で助けになったのではないかと思
う。また, 新聞読解やレポートのテーマを自由選択
にしたことで, 前期よりも積極的な態度が感じられ
た。

工学系・私費クラス

受講生: 10名, 担当: 秋山 豊

授業のねらい: 読む力, 書く力の養成。脱国家的な地
球的問題群のひとつを共通テーマとして取り上げ
る。テーマについての理解を深める過程で読む力,
書く力の向上をめざす。最終目標は, 共通テーマに
精通することである。

4 5	グローバル・キャピタル ・多国籍企業の市場戦略 ・多国籍企業と国家	聞く / 読む	大意 / 選択	書く： 要旨・意見を短文 で	聞く
6 7	グローバリゼーションへの 懸念 ・「画一化」への不安 ・「勝ち組」「負け組」論 ・painstaking と risktaking	読む	速読： 大意 / 選択 / マッチング	書く / 話す： 賛否両論を文章で	読む
8 9 10 11	各国事情(世界・日本・中国・ 韓国) ・負の相互依存 ・「社会の絆」の脆弱性 ・各国事情	読む	速読： 大意 / 選択 / マッチング	話す / 書く： 自国事情を文章で & 報告	読む / 聞く
12 13 14	(まとめ：レポート作成を めざして)			話す： レポート構成など を検討	聞く

評価：授業への参加度，タスクシート，レポート
工夫・反省：授業に積極的に参加し，随時の課題をこ
なしていけば，最終的にレポートの作成につながる
ように工夫する。

2年前期

文章表現

(文系)火曜1限,担当:鹿島 央

授業のねらい：大学の勉学に必要な日本語運用能力の
うち，特に文章表現能力を強化する。高度な読解能
力やレポートなどを書く力を養成する。日本社会・
日本文化に関する問題を扱った文献等を読んだり，
それに対する自分の考えをまとめる練習を通して，
他の授業などで役に立つ文章表現能力の向上をはか
る。

授業内容：

以下の3点を授業の柱とした。

日常的なメールの作成：指導教官に本を借りる，
レポートの提出期限について，コンパにさそう，欠
席願い，暑中見舞い，一時期国のあいさつなど，毎
回5分程度で書く課題

現代日本社会の問題点について，新聞，雑誌など
の資料を読むことで内容把握をする

書くための技術的な方法を確認：句読点，引用，
書き言葉，論文で使うことば，要約など
共通のテーマとして，「少子化」をとりあげ，それ
ぞれの意見をまとめ，最終レポートとした。

参考資料：新聞，雑誌などの記事

C&P 日本語教育・教材研究会編（1993）

『日本語作文II』専門教育出版

産業短期大学日本語教育研究会著（1996）

『研究発表の方法』

評価：毎回の授業内での書く作業の課題，参加度によ
る。

工夫・反省：学生の興味を多くの資料を読むことで絞
り込み，後期の論文作成につなげ，共通の話題で全
員が書けるようにもっていかうとした。しかしなが
ら，それほど多くの資料が読めず興味も分散したま
まに終わった。後期には引き続き，様々の資料を読
むことから始めた。時間配分にむずかしさがあった。

2年後期

文章表現

(文系)木曜1限,担当:鹿島 央

授業のねらい：2年前期で学んだ日本語（文章表現）
をふまえ，より高度な読解力・文章表現力の向上を
めざす。さまざまなテーマを扱った文献の正確な読
み取りと，それを通じて日本社会の諸相に関する理
解を深める。レポート及び論文作成のための，論理
的な文章の書き方をきめ細かく学習する。

授業内容：

以下の3点を授業のポイントとした。

語彙を増やすための練習問題

「論文とは何か」について，序論，本論，結論に
わけて解説し，練習問題をする

テーマを「日本は豊かか」に決め，自分の立場を
明らかにし，少しずつ授業にそって書く

参考資料：新聞，雑誌などの読解

浜田麻里等（1998）

『論文ワークブック』くろしお出版

小林康夫，船曳建夫編（1994）

『知の技法』東大出版

河野桐子他（2003）

『語彙力ぐんぐん1日10分』スリーエーネットワーク

評価：毎回の授業内での書く作業の課題，参加度による。

工夫・反省：今回の授業では，論文がどのようなもの

か学生には肌で感じ取ることができたように思われる。最終的に提出してもらった論文形式の提出物を読むとそのことが理解できる。ただ，本論での議論を深めるために，論拠となる資料を収集することが時間的な関係で少しできにくくなり，必ずしも十分な内容とはいえないことが残念であった。論文であるので，このあたりの対応を次回はよく考えて実施したいと思う。